

□糖尿病教育における料理教室の重要性

研究課題名	糖尿病教育における料理教室の重要性
研究期間	2017年～2021年
研究対象	2017～2018年の糖尿病教室受講者患者で、料理教室の参加有り・無しの患者。同時期に糖尿病治療を継続しており、糖尿病教室の受講がなく、個人栄養指導も受けていない患者。
研究の目的・方法	<p>当院では、平成7年より管理栄養士主導にて糖尿病教室を開催し今年で27年目になる。平成11年からは専門医の指導のもと現在の形の糖尿病教室が定着している。</p> <p>当院の糖尿病教室の特徴は、4週目に料理教室を実施し、調理過程を見て頂くデモンストレーション形式で、患者さんと近い距離で、具体的に説明をしながら調理を行うことである。最後には試食コーナーを設け、仕上がった料理のボリューム感や味を直接感じてもらうことで、糖尿病食が決して特別な食事ではないことを患者さんが受け入れ、食事療法に向き合ってもらえることを大切にしている。</p> <p>先行研究として、2012年に当院の料理教室参加者へのアンケート調査と料理教室参加後のHbA1cの変化を評価し、料理教室参加は日々の食事作りに取り組む意欲と血糖コントロール改善にも有用である報告を行った。</p> <p>今回は、当院の糖尿病教室の受講があり、料理教室への参加の有無で治療効果に差があるのか、また同じ時期に糖尿病教室にも参加が無く、個人栄養指導も受けていない患者さんとの治療効果に差があるのかについても分析することを目的に研究を行いたい。</p>
研究に用いる試料・情報	<p>調査期間に糖尿病教室に参加した患者を栄養管理室で管理している参加者名簿にて参加状況を調査。</p> <p>電子カルテより必要な情報を取得する。</p> <p>診断名 年齢 性別 身長 体重 BMI 血液データ (HbA1c)</p>
研究責任者・担当者	栄養管理室 原 菜那未